

浜松医科大学 財務レポート

第11期事業年度(平成26年度) 2014年4月1日~2015年3月31日

2015



浜松医科大学は、

- 1) 優れた医療人を養成すること(教育)
 - 2) 独創的で世界の最先端研究の拠点になること(研究)
 - 3) 最善・最高の医療を提供し地域医療の中核的役割を果たすこと(診療)
 - 4) 産学官連携など、大学が持つ「知」を社会へ提供、還元すること(社会貢献)
- を使命とし、「教育」、「情報・広報」、「総務」、「研究推進」、「経営」、「病院運営」及び「調査・労務」の7つの企画室を設置し、4名の理事及び3名の副学長を中心に中期目標・中期計画に沿って事業の企画立案を行っています。

今後についても「多様な資金の確保」、「経費の効率的な使用・管理経費の抑制」、「有効な資源の配分」を推進し、教育、研究、診療及び社会貢献等の質の向上に取り組む、社会に期待される大学を目指していきます。

ごあいさつ

浜松医科大学長

中村 達



平成26年度の決算の時期が参りました。国立大学をめぐる厳しい環境の下で、本学職員の皆さんの協力と頑張りで、大学改革加速期間を何とか乗り切れそうに思います。

私は、教育、研究、診療のすべてにおいて環境が悪くても良い成果は出ないと考えております。それには国からの補助金を得ること、競争的資金を獲得することなど、外部からの資金獲得は大切です。一方で、学内ではお金の使い方が重要です。経常経費、たとえば人件費、大型機器のリース費用やメンテナンス費用、光熱水費、老朽化した施設の改修費などが膨らみ過ぎると後に戻れません。この辺が難しいところですが、会計課および病院経営支援課はその点を頑張ってくれて、26年度も赤字を出しませんでした。平成27年度に入り、法人化後12年目ですが、第3期に向けてかなりの部分を新しくできました。本学は、財務レポートを見ていただき、皆さんのよきご理解とご協力があって、この難しい時期を明るいものに変えていきたいと考えています。

浜松医科大学理事(財務担当)

前田 広

日頃より浜松医科大学の教育、研究、診療等の活動にご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。

この財務レポートは、6月に文部科学省へ提出した第11期事業年度(平成26年度)の財務諸表等を基に、本学の活動状況をより分かりやすく説明するために作成しています。

国立大学を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いていますが、外部資金等の多様な財源の獲得に努めるとともに、経費の節減や効率化を引き続き行うなど、財務改善に向けた取り組みを実施しています。

また、本学では「国立大学改革プラン」の機能強化の取り組みとして光医学教育研究拠点形成事業を推進しています。光先端医学教育研究センターの設置、光医学の素養を持った医療人の養成等の取り組みを通して、本学の教育・研究をさらに機能強化します。

本レポートを通して、本学の運営状況をご理解いただき、更なるご指導・ご支援を賜りますようお願いいたします。

貸借対照表 要約

決算日における資産、負債、純資産を表し、財政状態を明らかにしています。
借入金等の負債と国からの出資等の純資産による土地、建物等の資産をもとに教育、研究、診療の業務活動を行っています。

(単位：百万円)

| 資産の部 | 26年度 | 25年度 | 増減(26-25) |
|---------------|---------------|---------------|----------------|
| 土地 | 6,493 | 6,493 | — |
| 建物 | 21,770 | 22,612 | ▲ 842 |
| 構築物 | 274 | 278 | ▲ 4 |
| 工具器具備品 | 3,906 | 5,311 | ▲1,405 |
| 図書 | 613 | 605 | 8 |
| その他有形固定資産 | 9 | 8 | 1 |
| 無形固定資産等 | 107 | 121 | ▲ 14 |
| 固定資産 計 | 33,176 | 35,430 | ▲2,254 |
| 現金及び預金 | 7,325 | 7,531 | ▲ 206 |
| 未収附属病院収入 | 3,280 | 2,869 | 411 |
| たな卸資産 | 273 | 231 | 42 |
| 未収入金等 | 175 | 149 | 26 |
| 流動資産 計 | 11,054 | 10,782 | 272 |
| 資産合計 | 44,230 | 46,213 | ▲ 1,983 |

| 負債の部 | 26年度 | 25年度 | 増減(26-25) |
|----------------------|---------------|---------------|----------------|
| 資産見返負債 ^{※1} | 2,827 | 3,072 | ▲ 245 |
| 借入金 | 18,849 | 20,226 | ▲ 1,377 |
| リース債務 | 1,288 | 1,794 | ▲ 506 |
| 運営費交付金債務 | 454 | 195 | 259 |
| 寄附金債務 | 2,122 | 2,056 | 66 |
| 前受受託研究費等 | 316 | 265 | 51 |
| 未払金 ^{※2} | 3,267 | 3,685 | ▲ 418 |
| 預り金・その他 | 653 | 628 | 25 |
| 負債合計 | 29,778 | 31,925 | ▲ 2,147 |
| 純資産の部 | 26年度 | 25年度 | 増減(26-25) |
| 資本金 | 5,317 | 5,317 | — |
| 資本剰余金 | 4,470 | 4,603 | ▲ 133 |
| 利益剰余金 | 4,663 | 4,366 | 297 |
| (うち当期未処分利益) | 449 | 186 | 263 |
| 純資産合計 | 14,451 | 14,287 | 164 |
| 負債・純資産合計 | 44,230 | 46,213 | ▲ 1,983 |

☆貸借対照表、損益計算書の端数処理については、百万円未満を切捨てています。合計についても円単位で計算したものを端数処理して、百万円未満を切捨てています。

【資産】

平成26年度末現在の資産合計は前年度比1,983百万円(4.3%)減の44,230百万円となっています。

主な要因としては、

建物が病院再整備事業の改修等により取得した資産の減価償却に伴い842百万円(3.7%)減の21,770百万円となったこと、

工具器具備品が病院再整備事業の設備整備等により取得した資産の減価償却に伴い1,405百万円(26.5%)減の3,906百万円となったこと、

未収附属病院収入が2、3月の稼働額の増に伴い411百万円(14.3%)増の3,280百万円となったことが挙げられます。

【負債】

平成26年度末現在の負債合計は前年度比2,147百万円(6.7%)減の29,778百万円となっています。

主な要因としては、

借入金が国立大学財務・経営センターへの返済により1,377百万円(6.8%)減の18,849百万円となったこと、リース債務が償還等により506百万円(28.2%)減の1,288百万円となったことが挙げられます。

【純資産】

平成26年度末現在の純資産合計は前年度比164百万円(1.2%)増の14,451百万円となっています。

主な要因としては、

資本剰余金が損益外減価償却累計額の増加等に伴い133百万円(2.9%)減の4,470百万円となったこと、

利益剰余金が目的積立金141百万円を取り崩したこと、当期未処分利益449百万円を計上したこと等により297百万円(6.8%)増の4,663百万円となったことが挙げられます。

(注) ※1 資産見返負債 資産見返負債とは、運営費交付金、寄附金、補助金等を財源として取得した資産については、取得時に資産と同額の「資産見返負債(各々の財源の名称)」を負債に計上し、その資産の減価償却相当額と同額を取り崩し収益計上することで、収支均衡に作用する国立大学法人等の特有の勘定科目です。

※2 未払金 業者等への3月末時点での支払未完了の金額で5月末までには全額支払されるものです。

損益計算書

要約

年度内に実施した事業により発生した費用、収益を表し、一年間の運営状況を明らかにしています。

教育、研究、診療の業務・目的別に費用を示し、運営費交付金や附属病院等の財源別に収益を示しています。

(単位：百万円)

| 費用の部 | 26年度 | 25年度 | 増減(26-25) |
|---------------|---------------|---------------|--------------|
| 教育経費 | 262 | 348 | ▲ 86 |
| 研究経費 | 1,275 | 1,228 | 47 |
| 診療経費 | 12,290 | 11,689 | 601 |
| 教育研究支援経費 | 90 | 101 | ▲ 11 |
| 受託研究費 | 615 | 597 | 18 |
| 受託事業費 | 200 | 200 | 0 |
| 人件費 | 10,675 | 10,326 | 349 |
| 一般管理費 | 587 | 444 | 143 |
| 財務費用 | 306 | 337 | ▲ 31 |
| 経常費用合計 | 26,304 | 25,274 | 1,030 |
| 臨時損失 | | | |
| 固定資産除却損 | 50 | 9 | 41 |
| その他 | 48 | 19 | 29 |
| 費用合計 | 26,403 | 25,302 | 1,101 |
| 当期総利益 | 449 | 186 | 263 |

| 収益の部 | 26年度 | 25年度 | 増減(26-25) |
|---------------|---------------|---------------|--------------|
| 運営費交付金収益 | 5,281 | 5,087 | 194 |
| 授業料等収益 | 713 | 708 | 5 |
| 附属病院収益 | 18,394 | 17,284 | 1,110 |
| 受託研究収益 | 627 | 606 | 21 |
| 受託事業収益 | 198 | 200 | ▲ 2 |
| 寄附金収益 | 484 | 459 | 25 |
| 間接経費収入 | 132 | 136 | ▲ 4 |
| 施設費収益 | — | 20 | ▲ 20 |
| 補助金収益 | 99 | 153 | ▲ 54 |
| 資産見返負債戻入 | 626 | 623 | 3 |
| 財務収益 | 3 | 1 | 2 |
| その他の収入 | 178 | 184 | ▲ 6 |
| 経常収益合計 | 26,738 | 25,468 | 1,270 |
| 臨時利益 | 46 | 9 | 37 |
| 収益合計 | 26,785 | 25,477 | 1,308 |
| 目的積立金等取崩額 | 67 | 10 | 57 |

【経常費用】

平成26年度の経常費用は前年度比1,030百万円(4.1%)増の26,304百万円となっています。

主な要因としては、

診療経費が医療機器の老朽化に伴う維持修繕費の増及び患者数等の増加に伴う医薬品費及び診療材料の調達増により601百万円(5.1%)増の12,290百万円となったこと、

人件費が給与削減期間終了に伴う増等により349百万円(3.4%)増の10,675百万円となったことが挙げられます。

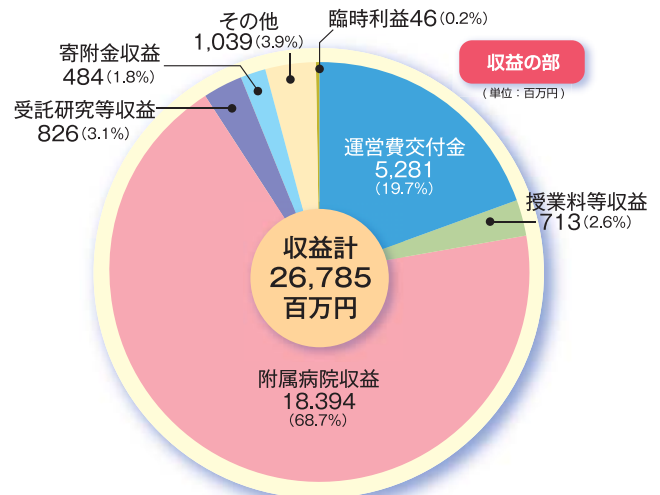
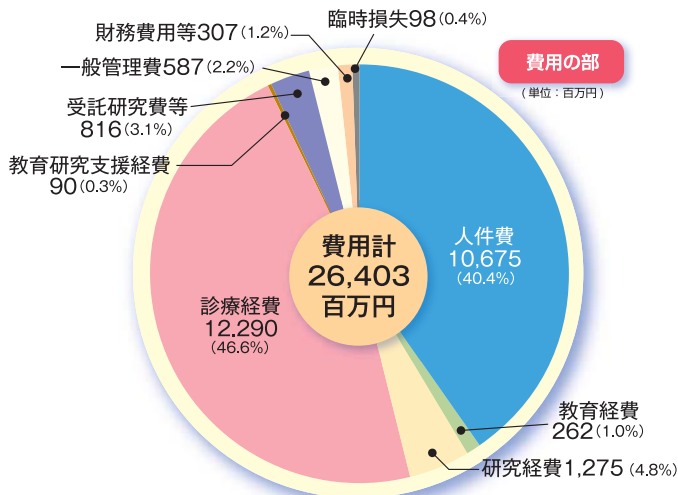
【経常収益】

平成26年度の経常収益は前年度比1,270百万円(5.0%)増の26,738百万円となっています。

主な要因としては、

運営費交付金収益が給与削減期間の終了等により194百万円(3.8%)増の5,281百万円となったこと、

附属病院収益が救急患者の積極的な受入れ、手術件数の増加等による入院患者数の増、入院単価の増及び入院基本料等の各種加算による診療単価の向上等により1,110百万円(6.4%)増の18,394百万円となったことが挙げられます。



平成26年度 主な事業

運営費交付金等による国の支援のほか、職員の努力により外部資金及び病院収入等が増加した中で、効率的な運用を図ることにより下記のような事業を実施することができました。

教育 に関する事業

- 1 臨床講義棟のラウンジに間仕切り及び空調設備を整備し、年間を通して快適な自主学習ができる環境を整備しました。
- 2 学生のグループ学習を促進するため、チュートリアル教室をはじめ、30室を超える教室等の貸出を6年生に優先的に行い、自学自習スペースの運用を拡大しました。
- 3 優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導く博士課程教育リーディングプログラムを推進するため、豊橋技術科学大学と包括協定を締結しました。
- 4 教育用設備の充実を図るため看護学科棟大講義室等にプロジェクターを8台整備しました。



1 臨床講義棟ラウンジ

研究 に関する事業

- 1 ナノスーツ(特殊な膜)で生物を覆い、生きたまま電子顕微鏡で観察できる技術開発をさらに推進するため、透過型電子顕微鏡超微形態観察システムを導入しました。
- 2 「時空を超えて光を自由に操り豊かな持続的社會を実現する『光創起イノベーション研究拠点』」がCOI拠点に採択され、拠点棟が静岡大学浜松キャンパス内に完成しました。
- 3 機能強化を推進するため基礎臨床研究棟に高感度シグナル検出器、データ解析サーバ等を整備しました。



1 透過型電子顕微鏡超微形態観察システム

診療 に関する事業

- 1 救急患者を積極的に受け入れた結果、手術件数、入院患者数及び入院単価等の増加に繋がり増収を図ることができました。また、これにより医療機器の更新(手術用顕微鏡システム等)や医療スタッフの人員増が図られ、医療の質の向上に繋がりました。
- 2 地域連携室スタッフが近隣の開業医を中心に63施設の訪問活動を行い、小児科の入院患者数の増加等の成果が得られました。その結果、小児入院医療管理料の上位加算「小児入院医療管理料2」の取得に繋がり増収を図ることができました。
- 3 各診療科において予定手術前日における医師の当直や夜勤の勤務体制を見直した結果、医療の安全・安心を高めるだけでなく、「手術・処置の休日・時間外・深夜加算1」の取得に繋がり増収を図ることができました。



1 手術用顕微鏡システム

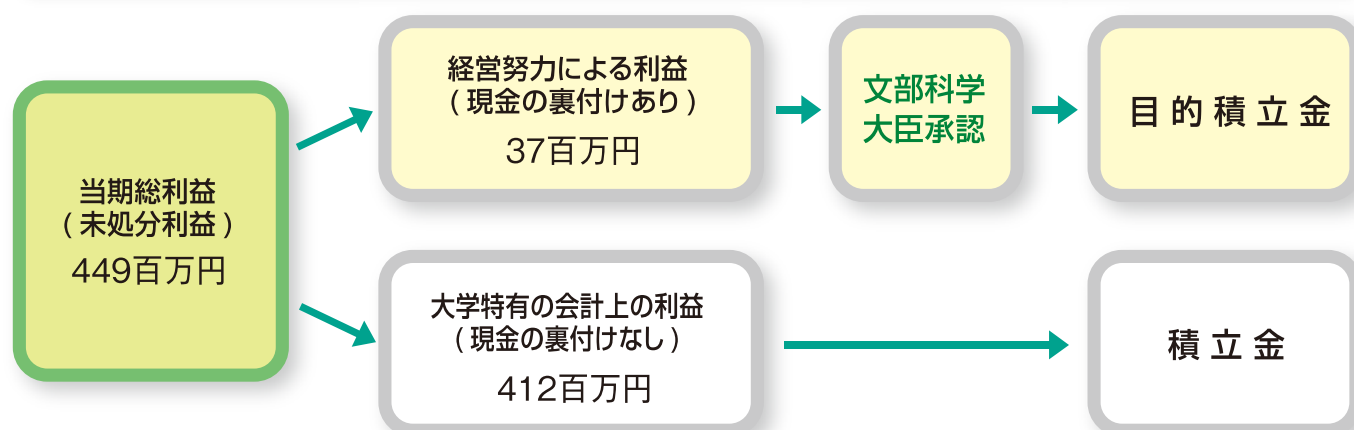
その他 の事業

- 1 管理棟の耐震工事を行い、Is0.7に上げる他、自助努力を加えて機能改修工事を行い、LED照明、高効率空調、エレベーター設備を省エネルギー対応機器へ更新しました。



1 管理棟 竣工

利益の内訳(利益の処分に関する書類)



New symbol mark

開学40周年を機に、本学の特色や個性を社会にアピールし、地域の方々に親しみを持ってもらえるようなシンボルマークを公募しました。

県内外から291点もの応募をいただき、選考の結果、右記のデザインに決定しました。



Concept

本学のローマ字での頭文字「h」をデザイン化。

水色部分が遠州灘(下部分の曲線)、浜名湖の水面、浜松から望む富士山(右上の突起)で浜松の特色、全体の曲線が生命の源である自然な水のゆらぎが医療の重要キーワード「生命」を表現しています。また、オレンジ色の丸と水色部分の両方を合わせて全体を見ると、元気、健康、躍動を表現した人(丸を頭、水色の両端を手に見立てる)に見え、人類の健康と福祉に貢献することをイメージしています。

※本レポートに関連する資料は、浜松医科大学ホームページにて開示しています。

■中期目標・中期計画、年度計画 http://www.hama-med.ac.jp/uni_introduction_chukimokuhyo.html

■財務諸表、事業報告書等 http://www.hama-med.ac.jp/uni_introduction_report_hjyouhou.html



国立大学法人浜松医科大学 財務レポート2015(平成26年度)

発行:国立大学法人浜松医科大学会計課

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1丁目20番1号

TEL.053-435-2111(代)

<http://www.hama-med.ac.jp>